ことゝなるさ（寿）一慶安四年又三百俵を加へ
き也（仰日記○勝直の子松平彌平果寛文五年世伝平くしろく家絶ゆ）
典一右馬允親明ハ庄右馬允清直の三男なり
家伝 ちゝめ久右馬允と云ふ 家譜 武蔵小生
る慶安四年父清直の遺跡を受て七百石
を賜りて知行す 家傳○今の小菊松平典一右馬允親悦の祖
か
ま

松平

清右馬允源親忠ハ清蔵親宅の二男なり
三河より生る 寛永譜 家譜 長澤に祖備中守親則
の子を庫頭勝宗の二男右馬允某の子
伝清四郎親常と云ふ 按るに家伝の八甚右馬允親常とあり 二ル
親忠の祖父なり 寛永譜 親宅と備中守親則の曾孫上野介昌親の
庶子右馬助某の八男とし親家と 父親宅ハ
なる（其外系譜齟齬なること多し六参考すべし）
三河より生る（寿）一永禄六年より

東照宮より仕へ（寛永譜松平基助家俊）安澤ふとゝく伺
代官ゝ仕とむ（寛永譜）元亀元年岡崎三郎信
康君に附屬ゝ奉りて岡崎より移り住む
天正三年病よりて仕へと辞し蟄居し
ゝる（脱ゝる家俊より八天正七年病よりて致仕ゝと記し松平基助家俊より天正三年故ありて仕へと辞ゝと
ゝ世ゝ今考考ゝて志ふに）同七年信康君法事あるゝ世給
ひしと聞悲歎ゝ堪に難堅ゝて念誓ゝ
ふ此年濱松ゝまいりく

東照宮ゝ仕へたてまつりふ
台德院殿御誕生に慶賀として貞宗に
御刀拜賜しとかく仰ゝる事ともありけ
まいまいゝ再び仕へまつりく岡崎の
城ゝ候に（松平基助家俊）同十一年四月濱松ゝまいり
東照宮ゝまみえたてまつり初花と名
つけ奉入と献つゝ八御歌ひけあ
まり采地拜賜ふてゝのゝまひゝと

を念誓いたすべくうまいくせし　家伝松平基助家伝

○按ずに家伝ハ十二年三月代事とし今松平基助家伝ハ十二年とするに　此とき御前ハ

めされ茶を製してまいらせよとあり乃至ハ

所々にとめるく額田郡土呂郷より出る茶

園あるべく言上せしかハ上林竹蕃こゝとを

土呂郷ハ采地と賜ふこゝを住く年こ

とハ茶を製して献せたり同十二年

二月茶壺を献つるべく命ぜ給ひ何ゝと

あるに望こゝ出ハまるべく出よと仰あり

しハ念誓酒つくることを知るを以て給へ

まるべくハ乃至ハ

まと二葉に葵を紋とせよとて伝紋つき

なる茶碗を賜ハ同十四年三河国に見代と

称る同十八年関東へ移せ給ひしを

勢とゝもるを以土呂郷に住し茶製の

事とうを結ひ年ゝを結茶に副く

江戸にまいる（松平甚助家侍）慶長五年九月再し三
河國に目代と命せらるまゝとあり久しくとも
年老くゝ三ヒとろくとなるゝまゝ世をし
ハ其子法藏親重と添くゝ久しく目代と職
とつとめよとせちよ命せらるゝ父子共ま
其職とうけ給りぬこの法藏親重ハ親正
に先立て其子孫世〻三河國土呂村に
住く今に絶し（家侍）念誓ハ同九年八月三日ゟ
死〻ゝ（家侍参松系侍）七十一形り（家侍）法名を
念誓と稱し（寛永譜参松系侍○按ずるに家侍ゟハ法名を妙心院と称したるのこと）親正
寛永六年ゟ出され五百俵と賜し（家侍）遠江
國に代官と命せらるゝ（寛永譜家侍）同十二年三
河國の代官と移る同十九年出羽國に代
官ようつり（家侍）かゝ移る（國朝大業廣記）根山の事とうけ給
ゝゟ其子戸一郎正信三河ゟ生る寛
永十年

大猷院殿と申し奉てまつり同十二年より
大番を勤む（寛永譜）其弟清左衛門親義寛永
十二年兄正信と共もろ
大猷院殿と申し奉てまつり（御日記）後父親正
三河國に住代官たりし時あるゝ為出
させらる遠江國の住代官よりもとゝ（家傳）正保
四年十二月廩米三百俵とゝのまふ（御日記）○按ずるに寛永譜ゝ八親義の名沒年ゝ八家傳ゝ八正信のことゝ又ゝ八家
譜ゝよるゝ正信父親正ゝ先ゝ死ゝ八親義二男ゝ
して家督継ぐゝるゝ分ゝ大番
松平孫三郎親善ゝ祖ゝ